

長崎追想

父・井上ひさしへの旅



— 名作に描かれた長崎の真実。 —

案内：井上 麻矢（劇団こまつ座 代表）

語り：美輪 明宏

監督：松村 克弥（構成／編集）

幻想の女：河浪 静里奈

ナレーター：高瀬 三奈

撮影：嵩山 幸之輔／菅野 廣

録音：北島 道雄／小畠 智寛

編集：伊世 憲造

プロデューサー：城之内景子／亀和夫

配給宣伝：Kムーブ／サクラプロジェクト

製作：プロダクションAQ003

協力：こまつ座

2023年1月公開(110分)

2日/3日/5日/6日

連日上映 13:00 15:30

東京都写真美術館ホール

前売り券 1,200円
(全国共通特別鑑賞券)



愛しく哀しい私の長崎 父への思いをたどった奇妙な冬の旅 知られざる長崎の真実…

キリスト教徒の迫害、処刑、そして原爆…
長崎は、数々の悲劇の上に浮かんでいる。

昭和の文豪、井上ひさしは、その長崎を舞台に「母と暮せば」を構想していた。
娘であり、父が遺した劇団「こまつ座」代表の井上麻矢は、その意志を継ぎ8年の
時をかけ映画化と舞台化を実現した。

戦後76年、父の死後11年の秋。
麻矢は「母と暮せば」の思い出の地をたどり、知られざる長崎の真実にも迫っていく。

父、井上ひさしが鋭く批判した「この子を残して」の永井 隆 氏の孫、
原爆資料館 館長だった芥川賞作家、浦上天主堂では大司教と出会い、
今も残る戦争の悲劇を目の当たりにしていく。

そして、旅の終わりに麻矢が知ったのは衝撃の人生だった…



語りは、長崎出身で被爆者である美輪明宏が、
長崎への想いを込めて作品を盛り上げる。

監督は「祈り～幻に長崎を想う刻～」(主演:高島礼子／黒谷友香)で、被爆者たちの愛と信仰を
描いた松村克弥。長崎にこだわり続ける異才が渾身のドキュメンタリーを贈る。

